

『北岳（南アルプス）』 山行報告

記：牛山

1 メンバー

L谷内、牛山

2 期日

2015年12月29日(火)～31日(木)

3 行程

①12月29日

冬の北岳は、今から21年前に池山吊尾根から登り、主稜線に出た所（吊尾根分岐）で強風のために敗退したことがあります。“冬の北岳へのリベンジ”それが今回の登山の目的です。

芦安の夜叉神峠Pに6時20分に到着する。ここには県警の臨時補導所が設置されていて、雪が少ないことや26日に最初のパーティーが入山したこと等の情報を頂く。歩き始めて15分で夜叉神トンネルに入る。トンネルは幾つか通過するが明かりがないので、ヘッドラが必要になる。今年は比較的温かで路面の凍結もなく歩きやすい。

スーパー林道を1時間ほど歩くと、鷲住山入口に到着する。ここから鷲住山を越えて野呂川の発電所まで下る。野呂川に架かる吊り橋を渡り、野呂川林道に出る手前の小さな岩場が予想以上に怖かった。どうも夜のお楽しみ用に詰め込んだ品々が重すぎたのが原因のようだ。9時30分にあるき沢橋に到着する。先行に1名、私たちの後の2名と一緒に声を掛け合う。

小休止してから、義盛新道の急な登山道に入る。雪は無いが急な登りで地面が凍っていて所々滑った。下降時はアイゼンがあった方がよさそうだ。高度が増すごとに、樹層がブナからシラビソ・コメツガへと変化していく。3時間ほどで池山お池小屋に着く。小屋はきれいで中に2名、池の周辺にテントが一張りある。積雪は10cmくらいしかない。明日のためにももう少し登ることにする。カラマツの林を登ると徐々に雪が出てきた。城峰への急登手前の標高2300m付近に平地を見つけてテン場とした。積雪は20cmほどしか無い。ここまで歩きやすかったが、水用のきれいな雪を取るのが大変である。

②12月30日

夜明け前の5時15分にヘッドラを付けて出発する。風も無く満点の星空に恵まれた。雪は少なく、しかもトレースもはっきりしているので歩きやすい。城峰を過ぎ、ボーコン沢ノ頭の手前で朝日が昇る。美しい朝焼けと富士山のシルエットが、初日の出をイメージさせてくれる。カメラの性能のおかげで、見た目通りに写ってくれるので後で写真を見るのも楽しい。

ボーコン沢ノ頭に7時に到着する。朝日に輝く北岳や間ノ岳が美しい。雲一つない快晴で風も無い絶好のコンディションである。なだらかな傾斜をパノラマやバットレスの景色を楽しみながら登ると、八本歯ノ頭に到着した。八本歯のコルはやせ尾根で、所々にはしごやフィックスロープがある。最初の急な下りの所でザイルを使用した。コルを過ぎると北岳山荘への分岐がある。そこから稜線方向を目指して登り、9時に吊尾根分岐に到着した。21年前、台風並みの猛風で標柱にしがみついたり、ザックを吹き飛ばされそうになったりしたのがウソのように、今日は穏やかである。

頂上へは岩稜左側のガリー状のルートをつとどり、9時25分北岳山頂に到着した。微風快晴で、北に甲斐駒・八ヶ岳、北西に仙丈・中央アルプス・北アルプス、南に南アの連山・富士山と360°の大パノラマが広がっていた。下降は、ガリーのルートは避け、岩稜伝いに下降し、朝登った道をテン場まで向かった。

③12月31日

昨日、早々寝たので4時に起床し、5時には撤収に入る。ゴミは残さないようにきれいに片づけ、5時30分にヘッドラを付けて下り始める。池山お池小屋を過ぎて雪が無くなってきた辺りでアイ

ゼンを付けた。雪がないことで凍った斜面が滑りやすかったためだ。あるき沢橋までに、登って来る登山者5名ほどとすれ違った。今年は雪が少ないことで、テン場について聞かれることが多かった。下山での、野呂川吊り橋から鷲住山までの1時間の登りは、体にこたえた。10時25分に夜叉神峠Pに到着した。車は40台ほど停まっていたが、駐車スペースにはまだ余裕があった。北岳よりも鳳凰三山に向かった登山者の方が多い様子でした。

4 コースタイム

①12月29日（快晴）

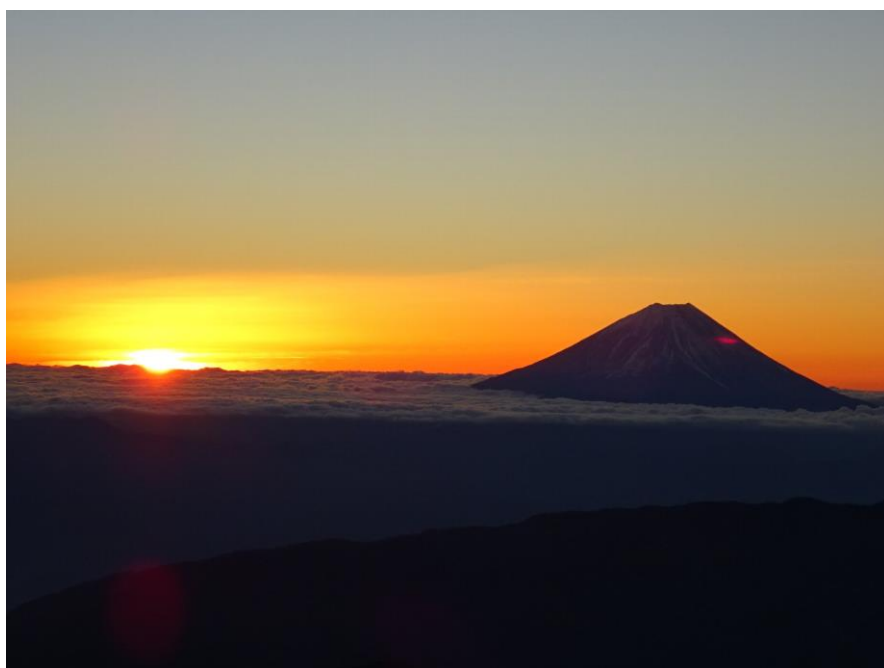
スポーツ公園 5:00——夜叉神峠P 6:20——鷲住山入口 7:45——野呂川林道 9:00——あるき沢橋
（義盛新道取付） 9:30——池山お池小屋 12:25——城峰手前 2300m付近 T S 13:40

②12月30日（快晴）

T S 発 5:15——ボーコン沢ノ頭 7:00——八本歯ノ頭 8:00——吊尾根分岐 9:00——北岳 9:25——
ボーコン沢ノ頭 11:15——T S 12:15

③12月31日（曇～晴）

T S 発 5:30——あるき沢橋 7:30——野呂川吊り橋 8:10——鷲住山入口 9:15——夜叉神峠P 10:25



<日の出 12/30>



<北岳を望む ポーコン沢ノ頭より>



<北岳山頂>